

2012.01.12「全部秘書がやったこと？国民を馬鹿にするな！小沢被告！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は1月12日です。昨日一昨日と陸山会事件で小沢さんが被告人質問を受けました。その様子がマスコミなどで報道されておりますけれども、案の定と言いましょうか、小沢さんは肝心の土地購入の資金の原資について聞かれると、まあ本人は知らぬ存ぜぬではありましたが、自分の資金だったと言っておりました。そして、その資金の中身は、ずいぶん変遷を辿ってきたのですが、初めは家族名義でかき集めた借入金で、とうとう最後は自分のお金だったのだということでした。そのお金の原資は、相続でもらった土地を売って、今の世田谷の大きな屋敷を買って、その後、余剰が出たとか、著作権の印税だったとか小沢氏本人はいろいろ仰っていましたけれども、そのことについての明確な証拠というのは何も提出されませんでした。そして、お金のやり取りは全部秘書に任せていて、特に政治資金の収支報告については一切目を通していない。秘書を信用していて、自分は天下国家のことだけが関心があって、あとは全部秘書に任せていたことだと、こういう話だったのです。

本当に、私は笑ってしまうというか呆れてしまいました。天下国家にしか関心がないというのは結構なことなのですが、そういう人が何故、いわゆる都内の一等地の十数億円の不動産を買い集めることを熱心にされたのでしょうか。これは小沢さんが、天下国家しか興味がないのだったら、不動産を買っておく

こと自体、どういう説明をされるのでしょうか。これも全部秘書が勝手になさったということにするのでしょうか。私には理解できませんし、そんな説明が通るわけがないのです。結局、かつて政治家が何かで起訴されたら、いつもそうでしたけれども、すべては秘書のやったこと、自分は全く関係ないという話と同じことなのです。

そして、最後に小沢さんは、裁判長からそれはおかしいじゃないですかと、政治資金収支報告はあなたが見て、秘書に指示してやることに法律上なっていますよ、それをやってなかったということですか、ということを聞かれると、やっていません、しかし、政治家はみんなやっていませんけれども、これが悪かったと言え、そう言われても仕方ないとおっしゃっています。小沢氏は最後には開き直っていますね。

私は今回の事件ですが、今まで何度も言っていますが、みんなが興味があるのは、あの土地購入のお金がどこから出てきたのかということですが、私もこれは一番大事な事だと思っています。しかし、私が国会で取り上げた時から、一貫して言っていたのは、その原資がどこからきたのかというのは非常に大事な事なのですから、政治資金収支報告で大事なことは、正しい報告をすることです。それをしなかったら、政治家は罰せられるということなのです。今回の問題点は、要するに正しい収支報告をしていなかったということはどうも明らかなのです。それは秘書がやったことで私は見ていなかった、私には責任

はないという論法は、これ法律の趣旨からいっても通らないということなのです。ですから、この問題は、いずれ結審するでしょうが、いずれに致しましても、この小沢さんの問題、虚偽記載の責任は免れることはないだろうということなのです。

そして、とうとうこの裁判を通じて、小沢さんの資産形成が一体いかなる経過でされたのかということは、明らかにされなかったのであります。そして、不信感だけが募ったのですけれども、小沢さんが二十年近く、ロッキード事件からのあと、政治改革の中心にいて、政治とカネの問題は、政治資金を明確にして、そして政党助成金も出せば、政治家は政治とカネの問題から解放されて、天下国家に邁進できるのだと言ってきたこの一連の政治改革は、嘘話であったということだけは、私達は事実として認識しなければならないと思っております。

そう思いますと、今回の小沢さんの、弁明は、本当にさめざめしいと言いましょうか、実に白けてしまうものでありました。そして、もっと私が白けてしまうものは、民主党の反応なのです。と言いますのは、私はこの問題を、3年前の2009年から国会の中で随分追及して参りました。けれども、その当時から、今に至るまで民主党の中でついぞ誰も小沢さんの問題をまともに党内で捉え、小沢さんに説明責任を求めるということは誰からも聞かれませんでした。菅直人氏などが、政局を見て、小沢さんを叩く方が自分たちにとって、支持を

集められるということで、党員資格停止やら、小沢さんに対して厳しい対決姿勢を、格好だけは見せました。けれども、見せただけで、じゃあ具体的に原資の中身は何かということについては、きっちり説明も何も受けていないのです。

そしてもっと問題は、今の野田首相です。野田総理に至っては、この小沢さんの問題の真相がどうこう言う以前に、親小沢とか反小沢とかいうことを止めましょう、ノーサイドで、党内融和が大事なんだと仰っています。こういうことで、この野田政権が誕生したわけです。私はこの当時を覚えていますけれども、民主党代表選で、党内融和するのは勝手です。それは党内の代表選ですからそれはいいでしょう。しかし、総理となったら、党内融和だけでは済まないわけで、一国の総理としてどういう国を作っていくのかということが、聞かれなければならないのです。けれども、一切これについては言わなかっただけではなく、その後唐突に、TPP 参加交渉に加わるということを表明し、税と社会保障の一体改革、財政再建のための消費税増税、こういうことも唐突にお話をされるようになりました。そして、このことに本当に違和感を感じたものです。といいますのは、この問題については党内融和とか言っておきながら、党内ですらまともに議論されませんし、民主党の中からも、異論、反対論が続出していたのです。いわんや、国会の中では、本当に何の説明責任もなしに、そういうことを突然表明することに対して、我々自民党をはじめとして、野党からも猛反発を受けたのは当たり前のお話なのです。しかし、それについての説明責任

が一切なされていません。結局、野田総理というのは、小沢さんの問題は、この問題を覆い隠して、党内融和をすることで、党の代表、そして総理に選ばれたけれども、後は何にも、自分の思いというものを国民に訴えるということはありませんでした。未だに、彼は記者会見というものを、ぶら下がりはもちろんまともにやっていませんし、自分がやりたいときに勝手に記者団を集めて、一方的な記者発表をしているだけなのです。

こうすることで、小沢さんの問題を見ていまして、小沢さんの問題はいずれ片がつくでしょう。しかし、何度も言いますが、原資がどこかということよりも、政治資金の虚偽記載、この事実だけは本人も認めてしまっているわけですから、どうしようもないでしょう。この責任によって、小沢さんの有罪は間違いなく、決定的なものになってきていると私は思います。そして同時に、この小沢さんの問題を覆い隠すことによって生まれた野田政権の命脈は尽きており、本年、野田政権が民主党の最後の政権になるのも間違いないだろうということなのです。

しかし、問題はそこから先なのです。民主党政権がもう潰れる、解散総選挙になる、これは既定の路線として動かない事実とします。しかしそこから先、残っているのは何かと言うと、民主党政権が倒れた後、自民政権が出来るのか、連立政権になるのか、これはまだわかりません。どの政権になろうとも、問題は参議院のほうで、過半数がどの政党もない。もっといえば、自民党は参

議院では、まだ第二党なのです。すると、これから先出てくるのは、参議院の過半数をどういう形にするかということです。ここをきっちりやっておかないと、衆議院でたとえどこかの党が過半数をとっても、この不安定な不況はかわらないのです。そういうことも含め、今年の出てくる課題と言うのは、解散総選挙によって、民主党政権が追い詰められてなくなることは間違いないにしても、まず自民党が政権奪還をし、そして同時に、そこから先にある政界再編があります。新たな枠組みをきちんと視野に入れておかないと、今年の政治は何も進まないということなのです。そういうことを見越して、私も、これから始まります国会の中で、論戦に加わって行きたいと思っております。国会が始まっていませんので、国会の話はあまり出来ませんが、昨日の、また一昨日の小沢さんの対応を見ておりまして、いよいよ、民主党政権はもう終わりだということをつくづく感じたのでありました。また、本年もどうぞよろしくお願いします。

ありがとうございました。